

中山間地域の活性化に 若者の力を



鳥取県の中山間地域で若者が活躍していることをご存じだろうか。三朝町の米作りグループ「三徳レンジャー」、日野町の新規就農者「楽園」、八頭町の地域おこし協力隊——と高齢化が進む地域で学生や若者が輝く、そんな仕掛けをバックアップしてきているのが、代表理事を務める中川（旧姓・田中）玄洋さん（34）が立ち上げた、NPO法人学生人材バンクだ。

■**大学生と地域をつなげる役割**
「ゲンちゃん卒業したら終わりだよ」と地域の人にいわれたのが、学生人材バンクを設立したきっかけの一つ。当時

ZIT（ジゲおこしインターネット協議会）に所属し、県内の社会人と交流を深めていた。仕事の話や社会の話、大学の中では学べないことを教えてもらう環境を持つことで充実した大学生を送っていた。

これを後輩に繋げれば良いのではないかと、地域の方も継続的な学生との接点を求めている。学生にとっても学びが大きいから需要はあるのではないかと。

そう考えて2002年4月、鳥取大学農学部修士課程在学中に「大学生と地域をつなげる役割を担おう」と6畳一間の住居を仕事場として設立した。

仕事道具といえば、パソコンと携帯電話のみ。「とにかく情

報を集めるのに必死でした。アルバイトの求人募集やイベントの告知が中心で、学生たちにメール送信していました」
アルバイト情報を入れたことがポイントと中川さんはいう。
「どの学生も欲しがる情報を入れることで、登録者の母集団を増やしました。そこから、ボランティアや地域に興味を持ってくれる学生が出てくれば良いと思って。最初からボランティアをやってみたい学生はわずかです。つなぐは多く獲得できた方がよい」

■**2200人超すメール登録者**
またメールによる情報提供も小さな団体には重要だという。「郵送だとお金がかかりますし、何より学生は郵送物を読まずに捨てますから」。人集めしたい対象がどんな媒体で情報を得ているのかを見ていくこと。学生からスタートした活動だからこそユーザー目線である。
現在では、メール登録者が2200人を超え、鳥取県の大学生の3分の1は登録者となっている。「今ではとりあえず登録しておこうという雰囲気、先



NPO法人
「学生人材バンク」
の事例

ず送り込む。そして、企画と一緒にやってもいいなと思う地域と、学生が取り組みたいと思える企画を展開する。受動的なボランティア参加から、能動的な企画参加への発展である。

■9年続く「村咲ク」プロジェクト

例えば智頭町中島集落で行っている「村咲ク」プロジェクト。毎年夏と冬に県外の学生と鳥取の学生が田舎体験をしており、9年間続いている。学生たちは、地域と一緒に企画して、実施することに面白さを感じ、地域の方からも「まさか毎年大学生と交流することができるとあって思ってた。接点があることはうれしい」という声を聞いているとのこと。

「まずは楽しさを届ける、そして両者にとって良い関係性を作っていくこと」が継続の秘訣（ひけつ）でもあり、仲間を増やす秘訣になっている。その結果、民泊や風呂を貸してくれる件数が毎年増えており、学生参加者も定員いっぱいとのこと。楽しい、面白いと思う空間作りが大事だとのこと。



輩から後輩へ口コミで広がっています。基本的な登録者募集には力を割かなくても良くなりました」

■面白い企画と受け入れる地域の協力

これをボランティア派遣や中山間地域での企画にどうやって繋げたのであろうか。より能動的な学生を集められるようになったのは、面白い企画とそれを受け入れてくれた地域だという。

「大学にいるだけだと本当の農の現場に触れる機会は少ない、そこに目をつけました」。同じ時期に大学生が農作業を手伝う企画などにも協力し、大学生を農村に運ぶ機会を作った。あとはコツコツと実績をつくったところで、県から農山村ボランティア事務局を募集するという話を聞いて応募。地域の需要と学生の需要がマッチした事業だったので手を挙げ現在に至る。行政の事業ということ、地域との接点も得やすくなったとのこと。

この委託事業がきっかけで広がった地域にボランティアをま





生産から販売までの米作り

三朝町三徳地区で展開する「三徳レンジャー」も学生企画として5年目を迎える。「生産から販売までの米作り」をモットーに、大学生スタッフが地域の方の協力を得て稲作を経験するプロジェクトだ。

このプロジェクトも棚田ボランティアで入っていた三朝町三徳地区で学生による企画をやってみたいという話になり、「お米を生産から販売まで全部学生がやる企画はどうでしょう」ということでスタート。

実際はかなり地域の方のサポートを受けながら米作りは進んでいる。学生も三徳地区にすっかり関わりたいとのこと、竹林整備作業や春祭りの手伝い、三朝町の田んぼバレー大会に参加するなど地域行事に参加するようになった。県外への販売なども精力的に行い、三朝や三徳地区の名を広めている。

両地域共、学生たちの自主性を引き出しつつ、地域にとってメリットがあるために継続していると考えられる。参加者の自主性を引き出す企画が、仲間を広げるコツとなっている。

NPOで働きながら田舎暮らし満喫

もう一步進んだ移住へのつながりについて聞いた。「最初はうちの社員に移住してもらったんです」。島根県から鳥取大学に進学し、学生スタッフからNPO社員となった横山(旧姓藤田)良子さんが、きっかけだったという。

ボランティアと卒論でお世話になっていた、鳥取市河原町西郷地区(神馬集落)で空き家があり、何か活用したいという話が出て、「住んでみよう」ということで持ち主に提案。移住第1号となった。近所から野菜をわけてもらったりと気にかけてもらいながら、米作りにも着手し、NPOで働きながら田舎生活を送っている。

横山さんに続く形で、同じ西郷地区(弓河内集落)に移住したのが梅野知子さんだ。こちらも学生人材バンク職員、狩猟免許を持つ彼女は、「狩猟女子」としてイノシシなどを獲ったりしながら、ハンター民宿(農家民宿)も営む。半NPO半ハンター女将生活というチャレンジをしながら明るく地域のハンターとの活動も行っている。

若者の新規就農の動き

日野町では学生人材バンクOBの高田昭徳さんを中心に、何のゆかりもない若者の新規就農(後継者就農)の動きが出ている。これも学生人材バンクがボランティアを送っていた集落である。

「農地も機械も空き家もある。誰か挑戦者はいないかな？」という地域の相談をもとに、鳥取大学出身者の高田さんを紹介した。高田さんはさらに自分のネットワークを活用して、次の挑戦者を呼び込んでいる。

「移住までになると、かなり人は考えて紹介する」と中川さんは話す。「地域の動きに配慮できるか。それでいて、自分のやりたいことも実現できる力があるか。味方を増やせるかなど見えています。あとは同じ地域に複数人入れることです」。移住者が自立できるように一緒に考えて動いていくことが学生人材バンクの使命だと話していた。

着実に進んできた学生人材バンクの今後の展開が楽しみである。

NPO法人 学生人材バンク

- 〈概要〉 ●所在地:鳥取市湖山町北1丁目427-1(鳥取情報市場)
 ●代表者:中川(旧姓・田中)玄洋
 ●構成員:常勤スタッフ、運営スタッフ(学生)、社会人ボランティア
 ●活動内容:情報提供、地域と学生の共同企画提案・運営など
 TEL 0857-37-3373
 ホームページ <http://i-site.jinzaibank.net>



代表者のコメント

代表理事 中川(旧姓・田中)玄洋さん



「若者がいない」「どうやって若者に来てもらえるか分からない」という声が中山間地域で一般的ですが、それをつなぐ仲間を集める仕組み、を構築し、活動してきました。仲間集めと人集めの秘訣は①連絡のできる人

をたくさん集めること②参加者の自主性を引き出すような活動にすること③移住まで考えるなら適材適所をしっかりと考えること一と言えらと思います。